



HISTORY



RY

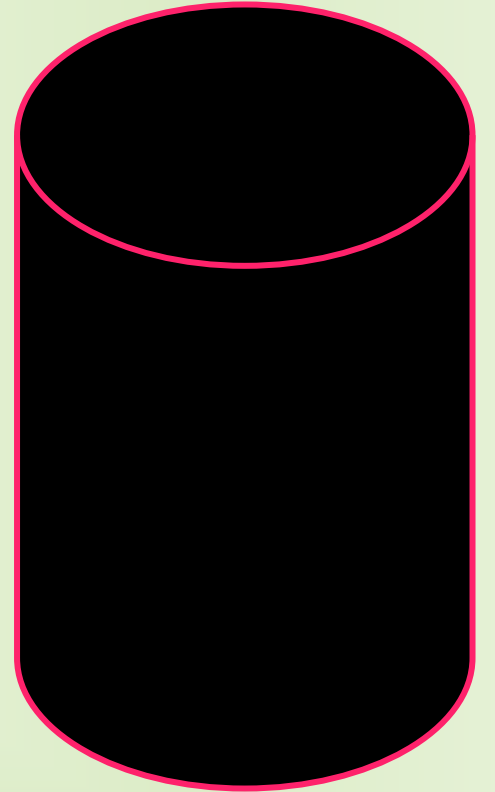
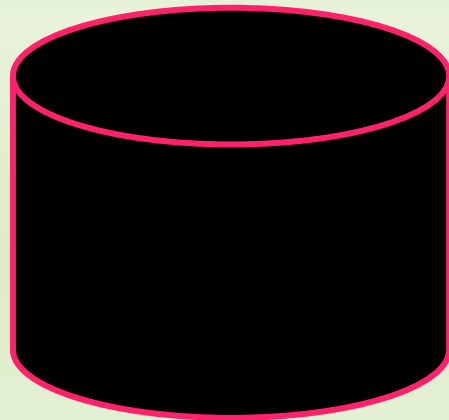
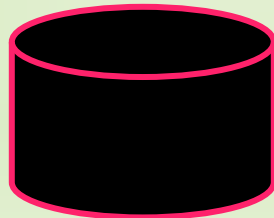
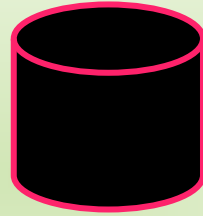
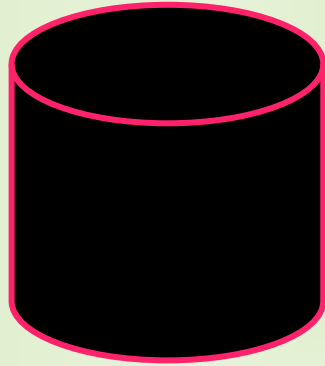
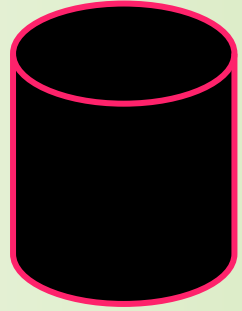
代ゼミ夏期特講

共通テスト歴史総合〈世界史編〉

世界史講師 佐藤幸夫









古代

- ローマ帝国
- オリエント→ペルシア帝国
- 漢帝国
- バラモン教
- ゾロアスター教
- 仏教
- 儒教
- ユダヤ教
- キリスト教

中世

- ゲルマン人とスラヴ人
- 封建社会
- ビザンツ帝国
- キリスト教世界
- イスラーム教の成立と拡大
- 魏晋南北朝～モンゴル帝国

近世

- 大交易時代
- ルネサンス
- 宗教改革
- 絶対王政
- オスマン帝国
- ティムール帝国
- サファヴィー朝
- ムガル帝国
- 明王朝
- 清王朝の隆盛

近代

- 市民革命
- 産業革命
- ナポレオン戦争
- ウィーン体制
- 西欧列強の植民活動
- 自由主義
- 国民主義
- 帝国主義

現代

- 第1次大戦
- 世界恐慌
- 第2次大戦
- 冷戦
- 民族&宗教紛争とテロ

第1日目

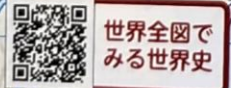
近代のはじまり～

19世紀前半までの西洋史

14世紀の世界



- 東アジア**
 - 紅巾の乱の流れをくむ反乱勢力
 - 朱元璋の勢力
 - 14世紀前半の元の領域
- イスラーム(ティムールの拡大)**
 - 1370年建国時のティムールの勢力圏
 - ティムール帝国の最大領域
 - ティムールの進出
 - イブンバットゥータの旅路 (p.128)
 - イスラーム国家
 - トゥグルク朝の最大領域
- ヨーロッパ**
 - カルマル同盟 (1397~1523)
 - フランスにおけるイングランド領 (1360)
 - ヴェネツィア領
 - ジェノヴァ領
 - ビザンツ帝国領
 - ペスト(黒死病)大流行
 - ペスト伝播の推定ルート (p.148)
 - 疫病の大流行が記録されるアジア・アフリカのおもな都市



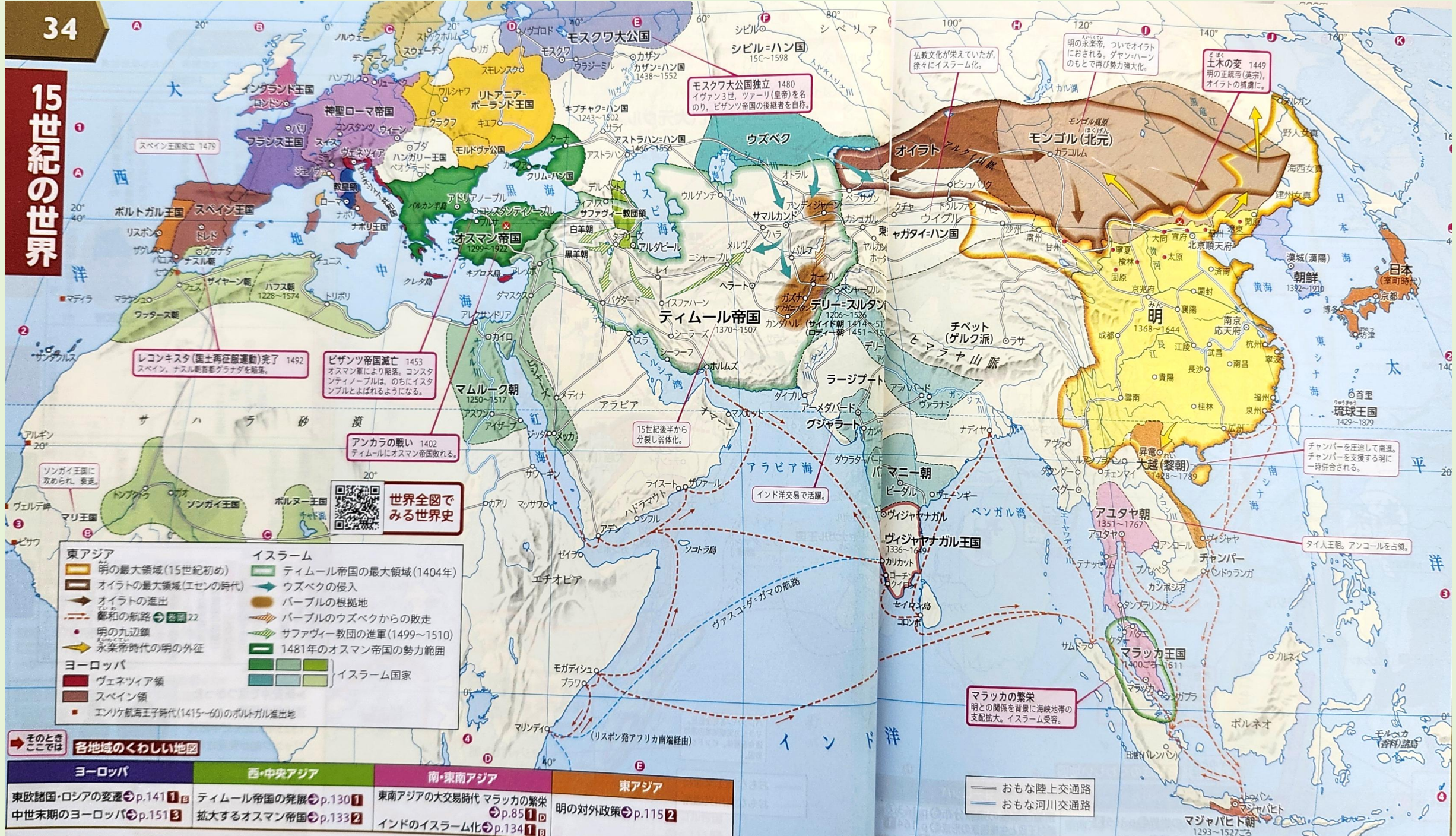
ヨーロッパ	西・中央アジア	南・東南アジア	東アジア
ペスト(黒死病)の流行 (p.148) 1	ティムール帝国の発展 (p.130) 1	東南アジアの農楽国家の発展 (p.85) 1	ユーラシアに君臨するモンゴル帝国 (p.111) 1
百年戦争 (p.149) 1		インドのイスラーム化 (p.134) 1	

パレンバンを完全征服。マラッカ海峡地域の港市連合を解体。ヒンドゥー教国。

マジャパヒト朝 1293~1527ごろ

おもな陸上交通路
おもな河川交通路

15世紀の世界



レコンキスタ(国土再征服運動)完了 1492
スペイン、ナスル朝首都グラナダを陥落。

ビザンツ帝国滅亡 1453
オスマン軍により陥落。コンスタンティノープルは、のちにイスタンブールと呼ばれるようになる。

アンカラの戦い 1402
ティムールにオスマン帝国敗れる。

世界全図でみる世界史

東アジア

- 明の最大領域(15世紀初め)
- オイラトの最大領域(エセンの時代)
- オイラトの進出
- 鄭和の航路(巻頭22)
- 明の九辺鎮
- 永楽帝時代の明の外征

イスラーム

- ティムール帝国の最大領域(1404年)
- ウズベクの侵入
- パールの根拠地
- パールのウズベクからの敗走
- サファヴィー教団の進軍(1499~1510)
- 1481年のオスマン帝国の勢力範囲
- イスラーム国家

ヨーロッパ

- ヴェネツィア領
- スペイン領
- エンリケ航海王子時代(1415~60)のポルトガル進出地

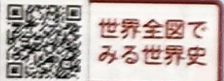
そのときここでは 各地域のくわしい地図

ヨーロッパ	西・中央アジア	南・東南アジア	東アジア
東欧諸国・ロシアの変遷 p.141 1	ティムール帝国の発展 p.130 1	東南アジアの大交易時代 マラッカの繁栄 p.85 1	明の対外政策 p.115 2
中世末期のヨーロッパ p.151 2	拡大するオスマン帝国 p.133 2	インドのイスラーム化 p.134 1	

マラッカの繁栄
明との関係を背景に海峡地帯の支配拡大。イスラーム受容。

おもな陸上交通路
おもな河川交通路

16世紀の世界



世界全国でみる世界史

- ポルトガル領 ● 拠点都市 ◆ 島
- スペイン領 ● 拠点都市 ◆ 島
- イスラム拠点都市 ◆ 島
- モロッコ諸島へ向かうムスリム商人のおもな航路
- モロッコ諸島へ向かうポルトガルの航路
- ポルトガルの奴隷貿易
- スペインの護送船団の航路
- ヨーロッパ沿岸のおもな航路
- 海禁解除後の中国商人の海上貿易
- ✂ ポルトガルの砂糖栽培地
- ☾ ドレークのスペイン船襲撃地
- ☼ オスマン帝国に属する海城のおもな出役地
- モンゴルの最大勢力範囲(アルタン時代)

トルデシリャス条約 1494
ポルトガルとスペインが、ローマ教皇の仲介でとりまとめた。世界の支配権を二分する条約。

教皇子午線 1493
コロンブスのアメリカ大陸発見後、教皇が提示したスペインとポルトガルの支配領域の境界線。しかしポルトガルは不服。

そのときここでは **各地域のくわしい地図**

アメリカ	ヨーロッパ	西・中央アジア	南・東南アジア	東アジア
大航海時代の世界 ⇨ p.155 3 古アメリカ文明 ⇨ p.156	宗教改革後の宗教分布 ⇨ p.163 3 絶対王政と主権国家の形成 ⇨ p.164 3 オランダの独立 ⇨ p.165 3	オスマン帝国・サファヴィー朝・ムガル帝国の鼎立 ⇨ p.130 2 拡大するオスマン帝国 ⇨ p.131 2	東南アジアの植民地化 ⇨ p.85 1 目 インドのイスラーム教の伝播 ⇨ p.86 1 目	明の対外政策 ⇨ p.115 2

アルタン、チベット仏教指導者にダライ・ラマの称号を贈る。モンゴル一帯にチベット仏教広がる(騎駝は明朝からの渡船)。

1543 種子島にポルトガル人より鉄砲伝来。

1557~ポルトガルが居住権を獲得。

1571~スペインの拠点



胡椒

1510~ポルトガルの拠点

1518~1656ポルトガル領

1511~1641ポルトガル領

サラゴサ条約 1529
スペインとポルトガルの条約。スペインがモロッコ諸島をポルトガルに売却。

カトリックの聖地(1529年)



丁香 香木 ナツメグ



世界全図でみる世界史

- スペイン領
- イギリス領
- 拠点都市 ◆ 島 ■ 海峡・密貿易拠点地
- オランダ領
- 拠点都市 ◆ 島
- フランス領
- 拠点都市 ◆ 島 ■ 海峡・密貿易拠点地
- ポルトガル領
- 拠点都市
- イスラム勢力拠点都市
- オランダの奴隷貿易
- ポルトガルの奴隷貿易
- オランダ東インド会社の貿易網
- オランダのバルト海貿易路
- スペインの護送船団の航路
- 鄭芝竜など福建商人の交易路
- オランダの進出にかかわる事項
- 父 銀鉱山

*「イギリス」という国名は、グレートブリテン王国が成立する(1707年)までイングランドの意で表記する。

そのときここでは 各地域のくわしい地図

アメリカ	ヨーロッパ	西・中央アジア	南・東南アジア	東アジア
北米植民地の変遷 p.186 1A	17世紀の戦争・反乱 ~[17世紀後半] p.187 1B	拡大するオスマン帝国 p.133 2	東南アジアの植民地化 p.85 1B	明の対外政策 p.115 2

ヨーロッパ諸国のライバルが排除され、オランダが日本への生糸輸出で巨利を得る。

インド商人に、オランダ発行の免許状購入を強制。

1619~ オランダのアジア貿易の中心拠点

アンボイナ事件 1623 イギリス人を排除し、香料諸島を掌握。

1628 オランダ西インド会社設立。スペイン銀船隊をまるごと奪取。

奴隷輸出基地

奴隷購入取引地

オランダ領ブラジル 1630~1654

1619~ オランダのアジア貿易の中心拠点

アンボイナ事件 1623 イギリス人を排除し、香料諸島を掌握。



フレンチ・インディアン戦争
1755~63
ヨーロッパでの七年戦争(1756~63)のころ、イギリスとフランスの北米での争いは激戦の末、イギリスが勝利。

北方戦争 1700~21
バルト海支配をめぐるロシアとスウェーデンの戦い。ロシアが勝利。

1713 ユトレヒト条約により獲得。

1703 イギリスと通商条約(メスエン条約)を結び、イギリスに経済的に従属。

スペイン継承戦争(1701~13)後、イギリス南海会社、スペイン領への奴隷貿易権(アシエンタ)獲得。

本国経済がイギリスに圧倒され、金の多くがイギリスに流出。

イギリスとの自由貿易を求め、本国の統制に不満募まる。

ブラッシーの戦い 1757
イギリスは、フランスと在地領主の連合軍に勝利し、その後、ベンガル地方などを植民地化。

1757 貿易を廣州一港に限定。



世界全図でみる世界史

- 1763年パリ条約後の領土**
- イギリス領
 - 拠点都市 ◆ 島 ▲ 密輸貿易港
 - スペイン領
 - 拠点都市 ◆ 島
 - オランダ領
 - 拠点都市 ◆ 島
 - フランス領
 - 拠点都市 ◆ 島
 - ポルトガル領
 - 拠点都市 ◆ 島
- 1776年に独立宣言した13植民地
 → イギリスの大西洋三角貿易ルート
 - - - その他のイギリスの貿易ルート
 ⊗ イギリスの対フランス・スペイン戦争
 清の最大領域(乾隆帝の時代)
 ■ 清の直轄地
 ■ 清の藩部
 ■ 華僑の進出都市
 ⊕ 銀鉱山

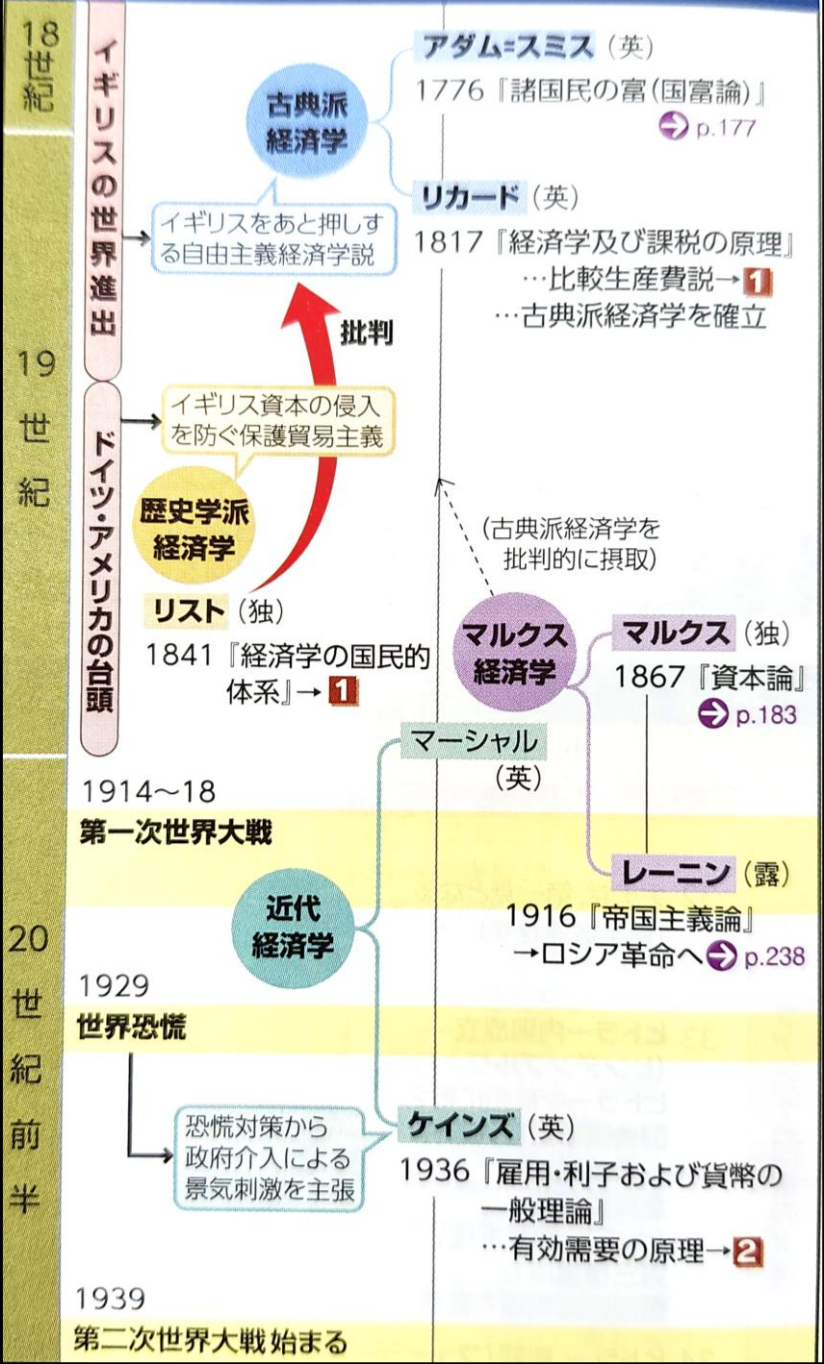
そのときここでは **各地域のくわしい地図**

アメリカ	ヨーロッパ	西・中央アジア	南・東南アジア	東アジア
北米植民地の変遷 ⇨ p.186 1A B	ロシアの拡大 ⇨ p.173 3	オスマン帝国の縮小 ⇨ p.223 2	東南アジアの植民地化 ⇨ p.85 1B	清の対外政策 ⇨ p.119 2
アメリカ独立戦争 ⇨ p.187 3	ポーランド分割 ⇨ p.173 5		インドのイスラーム化 ⇨ p.134 1B	
			インド植民地化の始まり ⇨ p.224 1B	

第2日目

近現代（19世紀）以降の 欧米諸国の動向

経済学の流れ

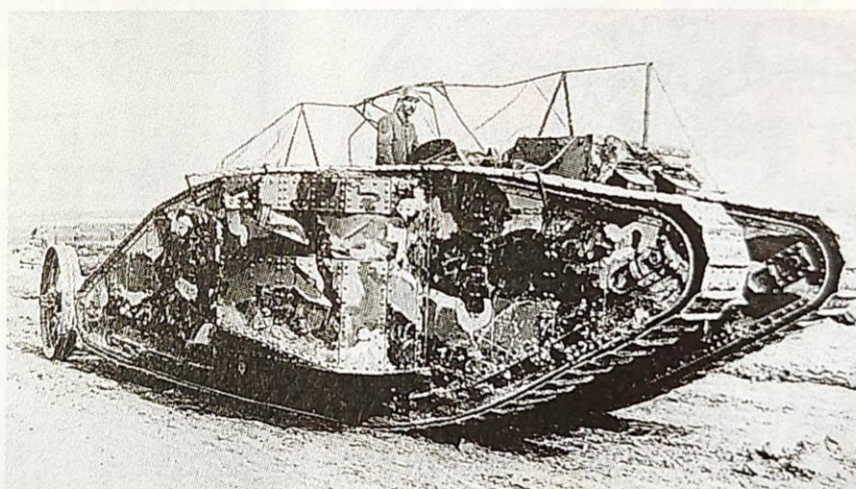


戦争を激化させた新兵器の登場

19世紀以降の鋼鉄の普及、無線電信の実用化、内燃機関の発明などの技術は、いずれも戦争に利用された。飛行機・戦車・毒ガス・潜水艦などの新兵器により、大量の戦死者が出た。また、非戦闘員にも多大な犠牲をもたらした。



▲⑤飛行機 第一次世界大戦では、偵察機が肉眼で前線の状況や大砲の着弾点の観測を行った。

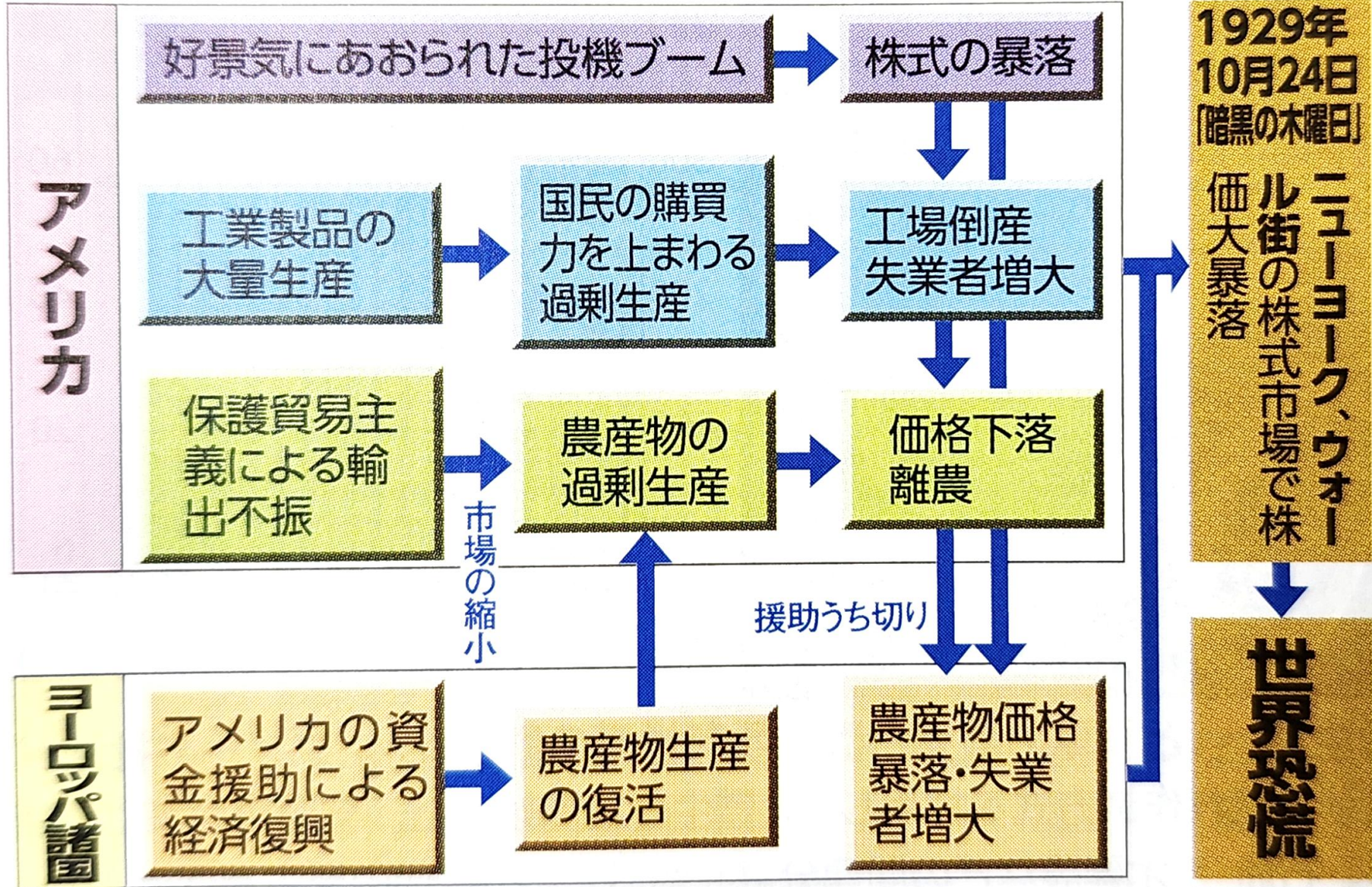


▲⑥戦車(タンク) 内燃機関を積み、キャタピラーで走る戦車は、1916年9月、ソンムの戦いでイギリス軍が初めて使用した。



▲⑦毒ガス ドイツ軍が1915年4月、イープルの戦いで初めて使用した。写真は防毒マスク。

1 世界恐慌の原因とその波及





HISTORY



RY

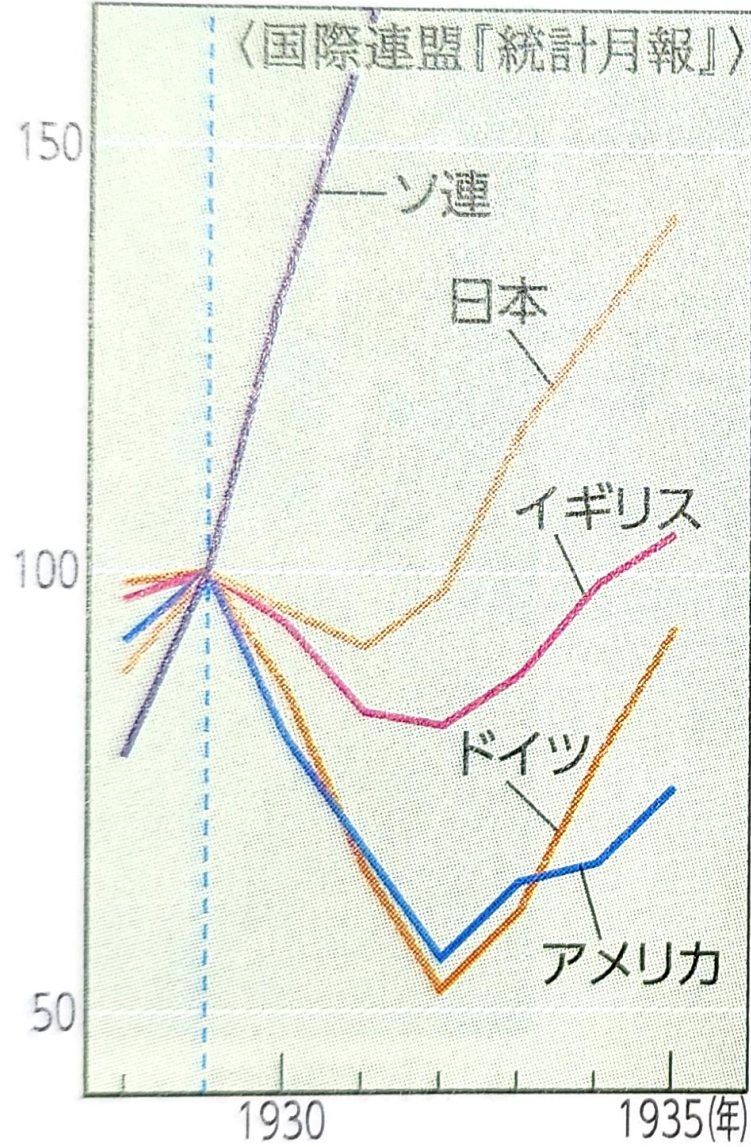


代ゼミ夏期特講

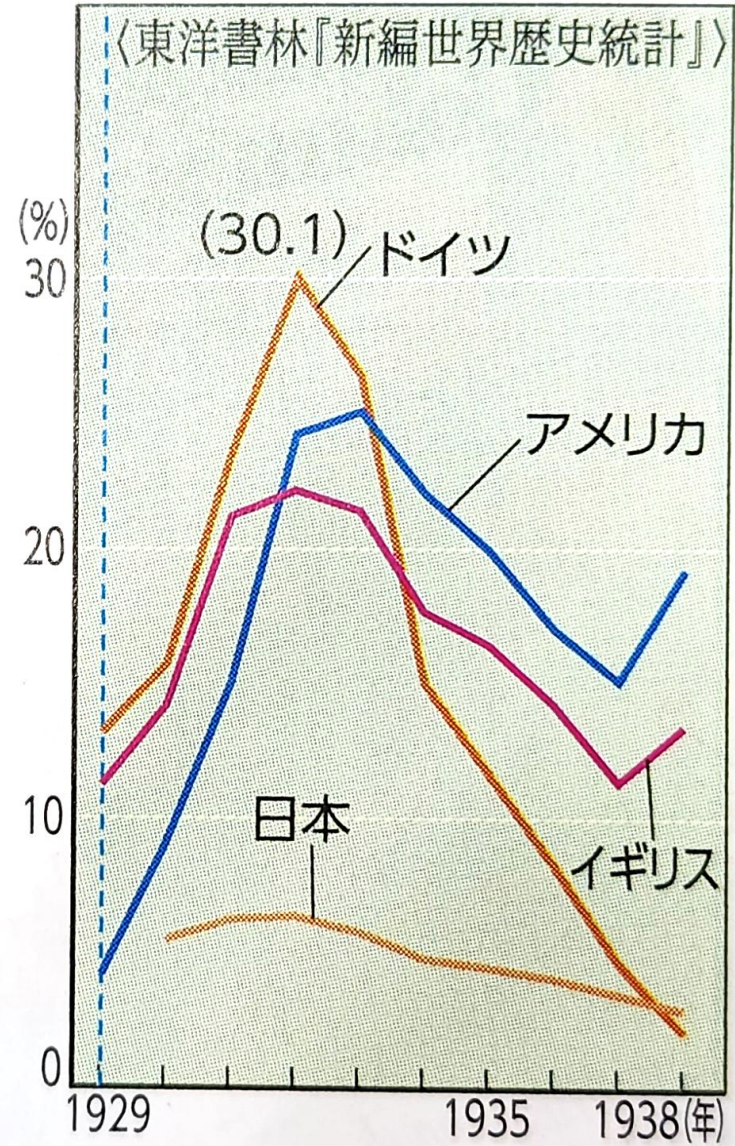
共通テスト歴史総合〈世界史編〉

世界史講師 佐藤幸夫

(1929年=100)



▲ ④ 各国の工業生産



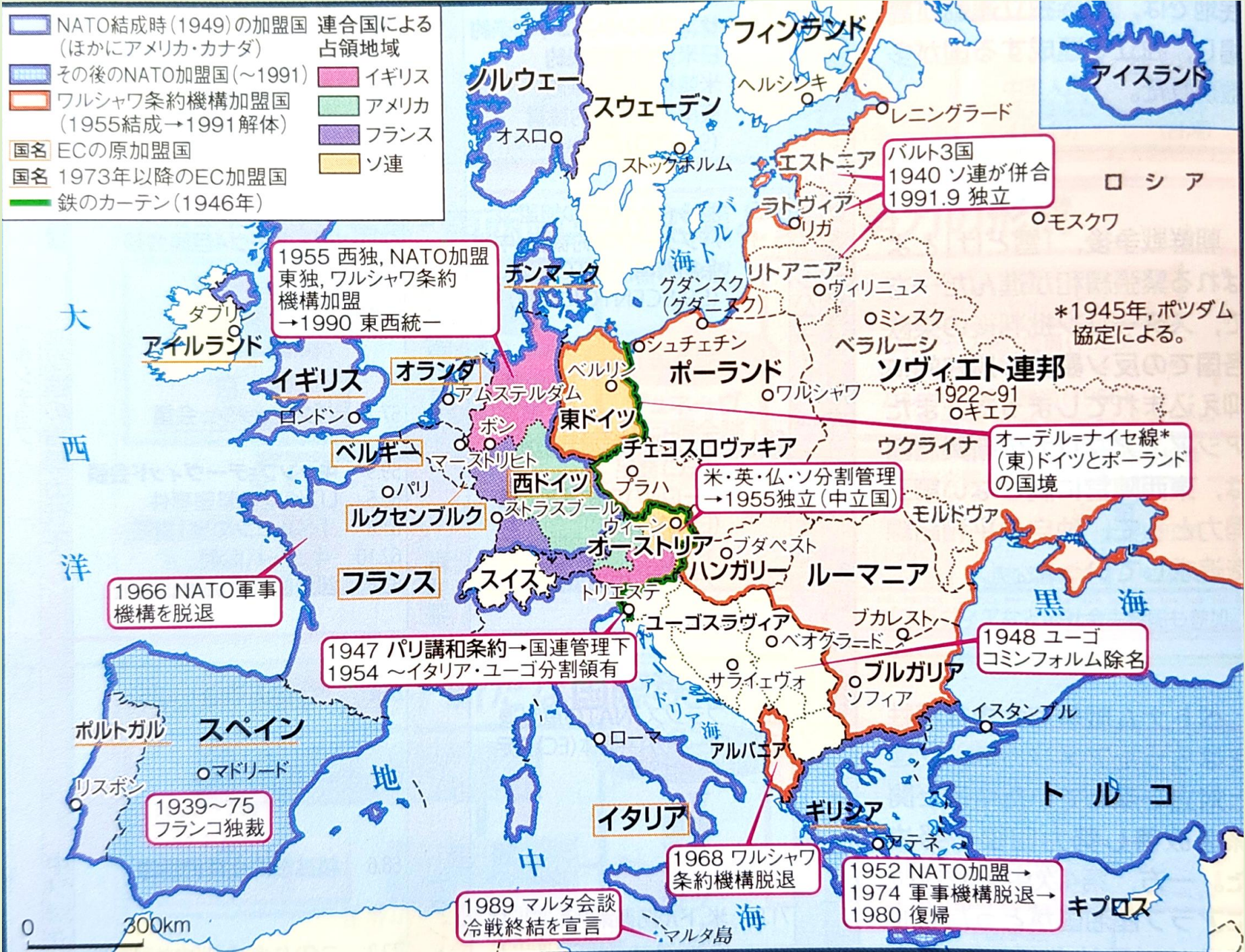
▲ ⑤ 各国の失業率

第3日目

冷戦のはじまり～

現代（21世紀）までの西洋史

- NATO結成時(1949)の加盟国 (ほかにアメリカ・カナダ)
- その後のNATO加盟国(~1991)
- ワルシャワ条約機構加盟国 (1955結成→1991解体)
- ECの原加盟国
- 1973年以降のEC加盟国
- 鉄のカーテン(1946年)
- イギリス
- アメリカ
- フランス
- ソ連



1955 西独, NATO加盟
東独, ワルシャワ条約
機構加盟
→1990 東西統一

バルト3国
1940 ソ連が併合
1991.9 独立

*1945年, ポツダム
協定による。
オーデル=ナイセ線*
(東)ドイツとポーランド
の国境

米・英・仏・ソ分割管理
→1955独立(中立国)

1966 NATO軍事
機構を脱退

1947 パリ講和条約→国連管理下
1954 ~イタリア・ユーゴ分割領有

1948 ユーゴ
コミンフォルム除名

1939~75
フランコ独裁

1968 ワルシャワ
条約機構脱退

1952 NATO加盟→
1974 軍事機構脱退→
1980 復帰

1989 マルタ会談
冷戦終結を宣言

0 300km

年	出来事	補足・キーワード
1945年	ドイツ敗戦・ナチス崩壊	ドイツ無条件降伏(5月)、 ヤルタ会談 により占領体制確定。
1948年	ベルリン封鎖 (~1949)	ソ連が西側へのアクセスを遮断、米英が ベルリン空輸 で対抗。冷戦激化。
1949年	東西ドイツの成立	西側: ドイツ連邦共和国(西ドイツ) (ボン)、ソ連側: ドイツ民主共和国(東ドイツ) (東ベルリン)。
1955年	両国が軍事同盟に参加	西ドイツ: NATO加盟 × 東ドイツ: ワルシャワ条約機構加盟 。
1955年	アデナウアー訪ソ	西ドイツ首相アデナウアーがモスクワ訪問、 西独とソ連が外交 関係樹立。
1961年	ベルリンの壁 建設	東独が西ベルリンからの逃亡者阻止のため建設(8月13日)。冷戦の象徴。
1969年	ブラント首相の 東方外交	西独首相ブラントが「 東方外交 」を展開、東欧諸国と関係改善。
1973年	東西ドイツが同時に国連加盟	両国が 同時加盟 、国際社会での並立が認められる。
1985年	ゴルバチョフ登場(ソ連)	ペレストロイカ・グラスノスチ による東欧自由化の波が強まる。
1989年	ベルリンの壁崩壊 (11月9日)	東独市民のデモ・国外脱出、ホーネッカー辞任、自由化の象徴。
1990年	ドイツ統一 (10月3日)	東独が西独に編入(東西ドイツ統一)、首都はベルリンに。
1991年	旧東独地域での再建開始	統一後、東西格差が課題に。「 経済的統一 」は長期的テーマに。

第4日目

近世～現代までの東洋史
〈アフリカ・西アジア・インド・東南アジア
・中国・朝鮮半島〉



HISTORY



RY

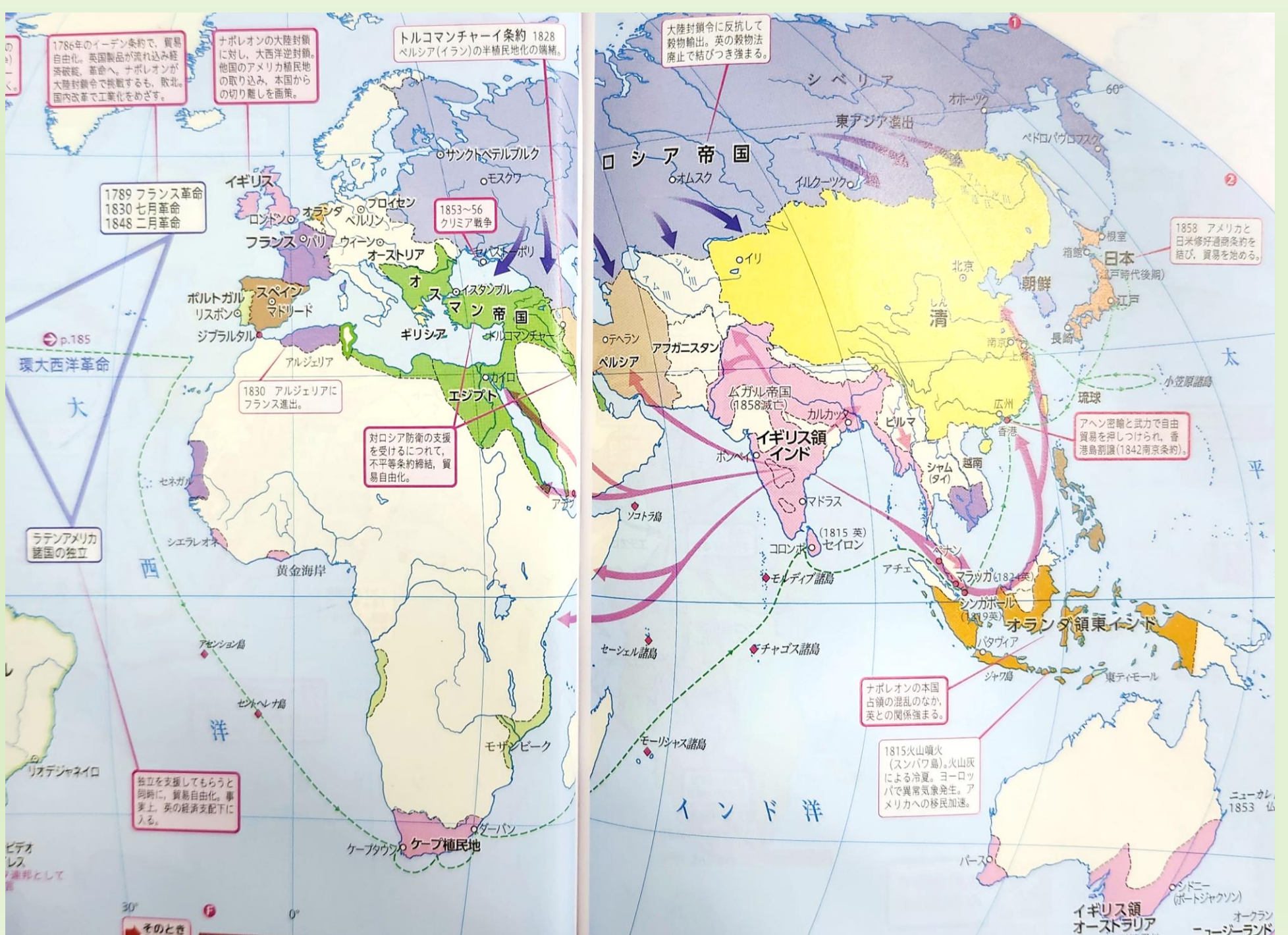
代ゼミ夏期特講

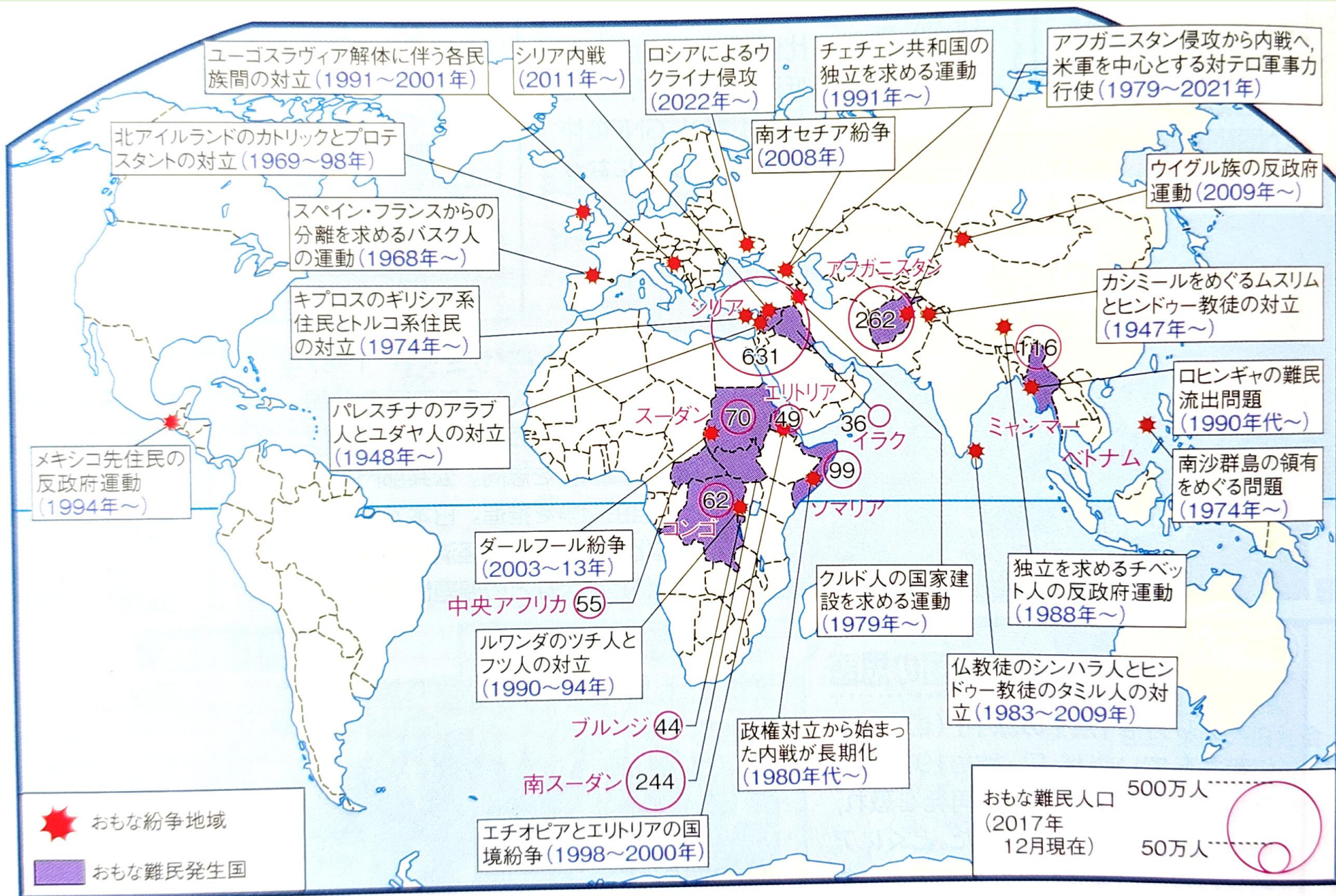
共通テスト歴史総合〈世界史編〉

世界史講師 佐藤幸夫



19世紀





▲ ④各地の地域紛争と難民

緊張が高まる台湾問題



習近平
しゅうきんぺい
シーチンピン

トランプ



バイデン

中国

- ・台湾政策五項目
(中台統一と中国の夢, 「一国二制度」, 「一つの中国」の堅持, 中台経済の融合, 同胞意識の推進)
- ・海外進出の最前線
- ・台湾は「核心的利益*」の一つ

軍事的挑発,
国際社会での
締めつけ

対立

アメリカ

- ・トランプ前大統領以降, 台湾に接近
- ・武器売却を積極化
- ・2021年の日米共同声明で半世紀ぶりに台湾に言及(台湾海峡の平和と安定の重要性を確認)

支持・支援強化

台湾

- ・民主主義の発展, “台湾人”意識
- ・半導体など世界的ハイテック企業が多数存在